

ココねっ♡と
(こころネットワーク福山)

「べてるの家」が

福山にくるでえ～！

講演会の
お知らせ



市民のための

精神保健福祉講演会2016

テーマ：

苦労人に役立つ



自分の助けかたを探そう

—レッツ！当事者研究—

日時：2017(平成29)年2月26日(日曜日)12:00～15:30(11時受付開始)

会場：福山市男女共同参画センター [福山市西町1-1-1 エピコRiM 地下2F]

講師：^{むか いやち}向谷地 ^{いくよし}生良さん、「べてるの家」のスタッフ&メンバーさん

主催：ココねっと(こころネットワーク福山)

参加費：500円《定員150人：参加チケットが必要です》

※注

駐車場はありますが
有料です。
公共交通機関を
ご利用ください。

当事者研究とは、精神障害を持つ当事者が
自分自身を研究すること。ど
うにもならない自分を、他人事のように考えて
みる。不思議な研究は、「自分自身で、共に」。
だから、無反省で「自分自身で、共に」。

2006年に始めて開催した「べてるの家」が福山にくるでえ～講演会。

今回は、6回目の講演会です。

2012年2月から開催している広島当事者研究会も55回を越えました。

問合せ先：長崎和則(ココねっと代表世話人)080-4264-0994
NPO法人びいあらいぶ 070-5676-6367
遊心工房 084-923-2024(FAXも同じ)

「べてるの家」のプロフィール

■べてるの家とは

べてるの家は、1984年に設立された北海道浦河町にある精神障害等をかかえた当事者の地域活動拠点です。社会福祉法人浦河べてるの家、有限会社福祉ショップべてるなどの活動があり、総体として「べてる」と呼ばれています。



生活共同体、働く場としての共同体、ケアの共同体という3つの性格を持っていて、100名以上の当事者が地域で暮らしています。

べてるの家は1978年に回復者クラブどんぐりの会の有志メンバー数名が浦河教会の旧会堂を拠点として活動をはじめたのがはじまりです。

1983年、浦河日赤病院の精神科を退院した早坂潔さんをはじめとする精神障がいを経験した回復者数名が、浦河教会の片隅で昆布の袋詰めの下請け作業をはじめ、1984年に当時浦河教会の牧師だった宮島利光氏から、「べてるの家」と命名されました。現在では、精神障がいばかりではなく、様々な障がいを持った当事者が活動に参加しています。

地域のために、日高昆布を全国に売ろう！」

べてるの家の歩みは、様々な悪条件を好条件とし活かしてきた歴史から生まれたものです。社会的な支援体制の乏しさや地域経済の弱体化が、精神障がいを抱えながら生きようとする当事者自身の生きづらさと重なり合ったとき、「地域のために、日高昆布を全国に売ろう」という起業の動機につながりました。1993年に有限会社を立ち上げて以降、

■浦河町とは

北海道の東南、襟裳岬にほど近い人口1万4千人の町です。スローガンは「丘と海とまきば」。サラブレットや日高昆布で有名な町です。

◆べてるの家の理念

- ・弱さの情報公開
- ・公私混同大歓迎
- ・べてるに来れば病気になる
- ・利益のないところを大切に
- ・勝手に治すな自分の病気
- ・そのまんまがいいみたい
- ・昇る人生から降りる人生へ
- ・苦勞を取り戻す
- ・それで順調
- ・三度の飯よりミーティング



注：この紹介文は「べてるの家」HPより転記しました。

URL：<http://bethel-net.jp/betheltoha.html>